



江戸時代の発明家、平賀源内の功績をたたえ電

徳大の2教授に

情報・電子で独創的研究

「源内賞」

子技術や情報通信分野の創造的な研究、発明に贈られる「源内賞」に、徳島大学工学部の任備継教授(46)・写真工と大西徳生教授(57)が選ばれた。さぬき市態度で25日、授賞式があり、賞を創設したエシマテル尾崎財団から賞状と副賞各50万円が贈られた。同賞は四国の科学技術向上に貢献しようとするさぬき市内の企業の寄付を基に年に一度贈られる。今年は12件の応募があった。

任教授の研究テーマは

「スーパー関数による言語処理及び感情インターフェイスの構築」。日本、中国、英語など多言語の音声情報を処理できるばかりか、声に含まれる人間の感情も認識できるシステムを開発したもので、介護ロボットへの応用など将来性が評価された。任教授は「我々の研究に新たな活力を与えてくれる賞。榮譽に恥じないよう努力を続けたい」と話した。

「電源ラインの高調波補償法」をテーマにした大西教授は、精密機器に誤動作を引き起こす電源のノイズを除去する独創的な回路を開発。装置の効率化や高性能化に成功したという。

若手研究者が対象の源内奨励賞には、愛媛工学部の神野雅文助教授(38)が選ばれた。

ひろば